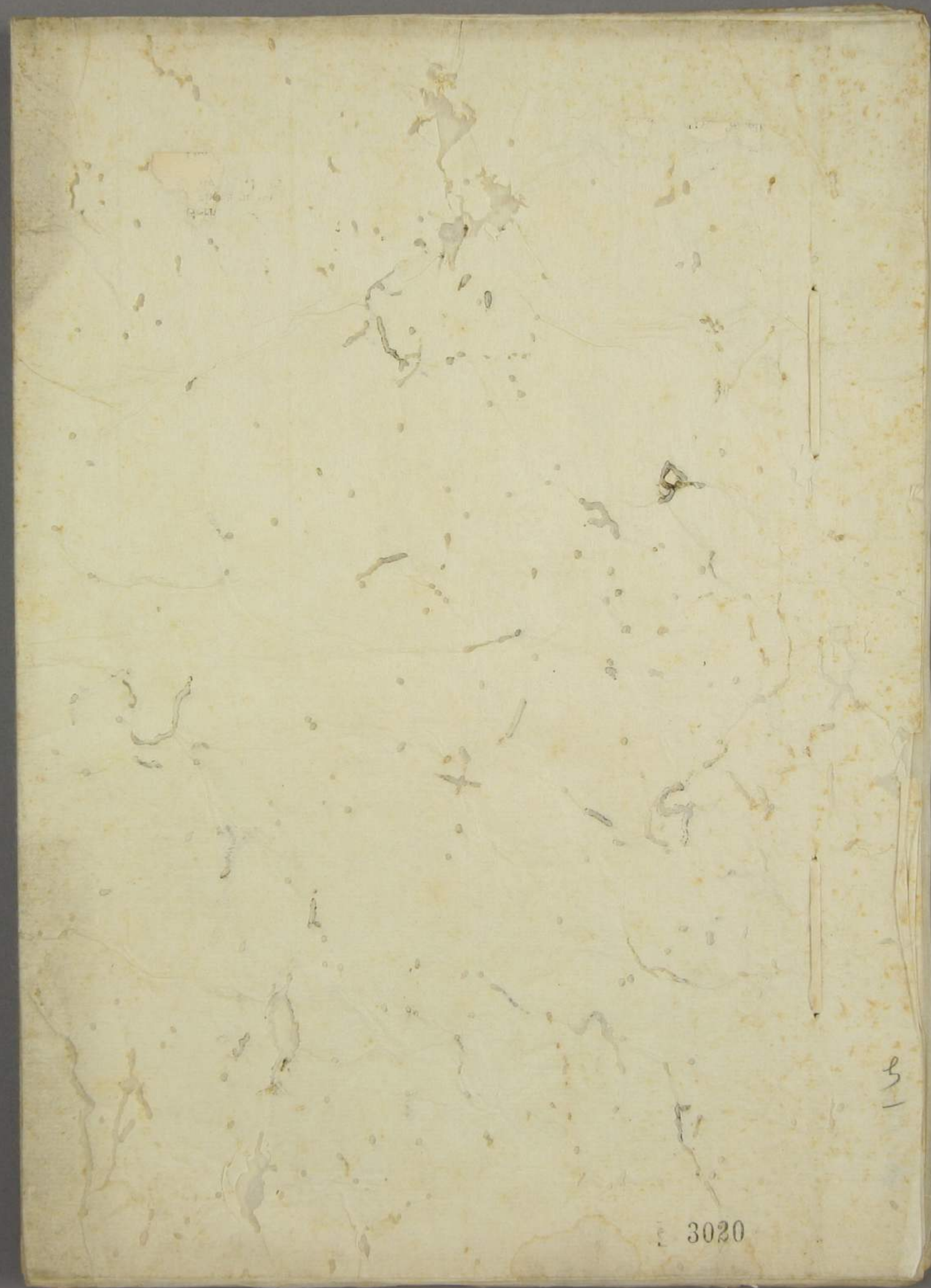






謹言我カ東派奉願寺ノ歴世

朝廷ノ特遇殊寵

ヲ蒙リシ故典ヲ茲ニ蒐録シテ以テ

聖恩ノ優渥

ナルヲ表シ且ツ我カ寺門ノ他刹ニ絶異ナル所以ヲ述フ

初メ弘安三年十一月五日

龜山天皇特旨ヲ

以テ久遠實成阿彌陀奉願寺ノ號ヲ賜ヒ勅願所ト

爲シ給フ天文五年二月

後奈良天皇我カ

中十世光教ニ二品親王宣下ノ勅書ヲ賜フ蓋シ當

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄

時 天皇踐祚ノ後九年ヲ歴テ未タ即位ノ
大典ヲ舉行スルニ至ラサルヲ以テ光教大内親王隆ト
共ニ其資ヲ獻セシヲ以テ也其他 後相原天皇

ノ御宇脇門跡ニ位セシ香衣ヲ着スルヲ許サレ

正親町天皇ノ時ニ於テ世々門跡タル可キ 勅有リシ

等宗典枚舉ニ暇有ラス是レ實ニ真宗一派ノ光榮
ナリト雖モ我カ宗門ニ於テ最モ貴重スル血脉相承ニ

照シ實ニ宗祖見真大師ノ本宗嫡流ナル才十二世

光壽ノ血統我カ東瀛本願寺ノ最モ光榮ト云所ナリ

東西分三ノ後ニ迄テ才二十世光朗安政六年十一月

ヲ以テ特ニ紫衣鉚色ヲ許サルノ勅ヲ賜ヘリ不肖光勝

職ヲ継クニ及ヒ文久元年宗祖六百年忌ノ法會ヲ

修ルニ膺リ忝クモ 孝明天皇ヨリ宸翰紺地金泥

淨土三部經及ヒ名香ヲ賜ハリシノミナラス同二年

六月内大臣久我建通命ヲ傳ヘテ宸筆七大字

一幅ヲ賜フ其文ハ即チ「龜山院恒仁尊儀」ト云フ

是レ豈尋常寺刹ノ企望ス可キ所ランヤ元治元

年七月堂宇兵燹ニ罹ルニ際シ 天皇又勅シテ

官中ノ一字（壽辰照）ヲ賜ヒ慶應元年光勝カ

後嵯峨龜山二帝ノ陵ヲ修補セシヲ賞シ御衣

一領ヲ賜ハシ是レ皆非常ノ特寵ト謂ヤ可シ而シテ

更ニ之ヨリ幾等ヲ超ヘシ龍眷ニシテ同宗他宗ニ

比例無キ者ト称ス可キハ慶應元年乙丑十二月廿

九日 御所ヨリ光勝ニ奉堂再建致ス可キノ

綸旨ヲ賜フノ一事也其文ニ曰

奉為

龜山帝勸諸門徒早播堂宇致

佛法紹隆沙汰可事

御菩提者依

天氣執啓如件

慶應元年十二月廿九日 權右中將 坐

東大谷前大僧正嚴如御房

同日野宮定功命ヲ傳ヘテ白銀三十枚ヲ賜フ其
書云

昨年七月類焼之處猶奉為

龜山帝堂宇再建之儀如

綸旨候依之白銀三十枚賜之候間弥勵
諸門徒速成就可有之旨
御沙汰候也

慶應元年十二月廿九日 定功

東山大谷本願寺御房

斯クノ如キ無比ノ特恩ヲ荷ヘリ故ニ光勝カ今日堂宇
ヲ再建セントスルハ實ニ
先帝ノ綸旨ヲ遵奉シ

以テ

龜山天皇御菩提ノ為メニスルノ微衷

ニ因レリ特リ私ニ我カ宗門ノ興隆ヲ希圖スルニ

非ス此他ニ於テ明治五年以來金銀御盃錦織

置物等ヲ賜フ數次其ノ光荣實ニ多シトス然レモ

孝明天皇ヨリ初メニ宸翰ノ三部經ヲ賜ヒ次ニ

宸筆ノ七大字一幅ヲ賜ヒ終リニ堂宇再建ノ

綸旨ヲ賜フ如キハ實ニ空前絶後ノ恩榮ニシテ

我カ門葉世々感銘忘ル可カラサル者也猶此他ニ

於テ安政三年ノ春光勝庭前ノ紅梅ヲ手折テ

奏シシニ

先帝睿感深キトノ御製御懷

紙ヲ賜フル此御製ハ曾テ

今上ノ御覽ヲ經タルヲ有リ亦以テ我カ寺門

特別ノ光荣ト稱ス可キ也薰沐シテ詠ス

勅額舊例 真宗之部

一 順德天皇宸翰 鳥屋野院

右 越後淨光寺

一 順德天皇宸翰 殊勝誓願興行之寺

右 現今越中古國府在り

一 四條天皇宸翰 天神護法錦繡之寺

右 近江錦織寺

一 龜山天皇宸翰

大谷本願寺

右 洛東鳥邊野

賜額勅使藤原兼朝云々

一 後醍醐天皇宸翰

出雲路山毫攝寺

右 現今攝津小瀨ニ在リ

以上

同前

他宗之部

一 後深草天皇宸翰

安養寺

右 西京寺町安養寺

一 後奈良天皇宸翰

南無阿弥陀佛淨福寺

右 同一條通り淨福寺

一 後柏原天皇宸翰

佛牙院

右 同上立賣報恩寺

一 後伏見天皇宸翰

極樂殿

右 同寺町法然寺

一 後花園天皇宸翰

靈光

右 同紫野大德寺

以上西京之部也各地未經調查

